

国軸山（太陽の峯の山・金峯山）

吉野山に想いを込めて

平成二十年二月六日

〒四七四 〇〇五六

愛知県大府市明成町一丁目一七五

〇五六二 四四 〇七〇八

三代目 東核芒種大伝道師
加古藤市

今から約七百二十万年前に、人間人類の祖人であり、生産しやうぶの神の代理「初代」伊邪那岐尊・伊邪那身命いざなみのみことが、丹波たんばの国の貴天原たかあまはらの丹庭たにわに、零迦児むかことして御降臨みかみにられました。この場所を人間人類の発祥の地、日出ひいずる丹にの元もと・初めの国・日本ノ国と言つ言葉を以つて伝えられているのです。

この言葉につなぐ真実は、太陽と日輪を中心とする、宇宙産うちゅうぶつ十三示元津しんげんを御創造ごぞうぞうされた①太陽たいやうの生産しやうぶの神は、太陽に②丹たんと③芒種むしゅのエネルギーを練ねり阿弥あみ生産しやうぶださせになり、太陽の周り「日輪界にりんかい」に留め置かれ、太陽の真光まひかりをもるに浴あびせかけになれば、丹と芒種むしゅのエネルギーは、その真光まひかりを互たがひいに激はげしく反射はんしやし還かえし合い、太陽の黄金おうごんの光ひかりの施津せきを、六千度とも七千度にも達たつする猛もう酌しやく酷こく高熱こうねつの日輪にりん太陽界たいやうかいが、熱あつい田でんとなり、その熱あつい田でんの中で、丹たんは全ての命いのちの寿命じゆんめいを授たまかる⑤亢進かうしん状態じやうたいに入り、芒種むしゅのエネルギーは太陽の真光まひかりと⑥渾然こんぜん一体いつたいの親おやの光ひかり「親光しんこう」となり、全ての命いのちを育はぐみ育ててゆく光ひかりとなるのです。

太陽の生産の神は、この丹と芒種のエネルギーを活動かせ「生えて生やす生まれて産む、食べて食べられる」輪廻転生の命を生命と誕生させる為に、宇宙産十三示元津をお創造になられたのであります。

宇宙産十三示元津の中の、一示元津「太陽」一示元津「日輪」をのぞく十一示元津で「土と海水と生」を発生させ、「土と海水」を集めた塊を創造り、「生」は⑦宇宙産十三示元津障壁賀（太陽の光の届く最限津）の中の天王平にお集めになりました。

宇宙産十三示元津の中の日輪太陽を中心に、日輪太陽を廻る地球と、地球を廻る月を、無色透明の真空光帯の中に五示元津・六示元津をお創造になられ、この二つを以って、生命と誕生させる為に「土と海水」を集めた塊を「生産土之地球」にされ、潮の満ち干き満干をもって刻を数えさせる月津をお創造になられたのでございます。

そして生産の神は、亢進状態にて命の寿命を授けられた「丹」と、太陽の真光と芒種のエネルギーとが渾然一体と成った【親光】で宇宙産十三示元津の天王平まで導かれ、宇宙産十三示元津障壁賀（太陽の光の届く最限津）の天王平に集められている「生」と結合させ、知瑠恵をもって⑧眼・耳・鼻・舌・身・意の六魂の靈魂を授け、植物・動物・人間の三位に浮別けになり、対等平等に生き続ける「生えて生やす生まれて産む、食べて食べられる」輪廻転生の生命の基姿⑨「靈態の丹生丹生魂遺伝子」を憑軀子されたので御座居ました。

この九靈神理氣を生態に授け、生態から生態へと輪廻転生していく、生命の「源」丹生丹生魂遺伝子が創造られたのでございます。

そして丹生丹生魂遺伝子は月津へ運ばれ、雄蕊と雌蕊・雄と雌・男と女の伊勢生成の生命体に生産換えて戴き、潮の満ち干き満干にて月日を数えられ、何時いつまでも生き続ける事が出来、生命存立存続のための一齣として、

嗣子孫々を生み出させ、死という形を取りながら逝く、転生の神仕組みを使われ、丹生丹生魂遺伝子の生命体を、地球の何処にでも行き、伊勢で生成の役務を果たす事ができる免疫を與えるには、大陸では難しく、池や沼・湖が多くある島の一部分と、海の一部とを一つに合わせる、日本列島の與謝津(天記津洲)を免疫所とお定めになり、息氣物の丹生丹生魂遺伝子生命体の植物・動物・人間の三津の星絲を降臨させられたのでございます。

最初に静津を司る植物の青零迦児の胞絲・雄蕊と雌蕊の伊勢で生成の雌雄蕊神・皇親神漏樹六根神が御降臨された場所は、現在の京都府與謝郡峰山町鱒留に御座います、藤社神社の宮内丹庭で御座います。

続いて動津を司る動物の赤零迦児の胞絲・雄と雌の伊勢で生成の雄雌神・皇親神漏身六魂神が御降臨された場所は、現在の京都府與謝郡峰山町久次に御座います、比沼麻奈為神社の宮内丹庭でございます。

人間の赤零迦児の哺子・男(初代伊邪那岐尊)と女(初代伊邪那身命)は、宇宙産十三示元津障壁賀の前の天の意和戸を離れるとき、生命の弥栄から発している「知瑠恵」を以って理津を司り、間違っても欲から発して来る「知恵」は使わず、「絶対に争い戦いは致さぬ」を誓う御難賛助の御誓約の契約を産靈、現在の京都府宮津市天橋立にあります籠神社の奥宮、真名井神社の丹庭に御降臨させられたのでございます。

植物の元親・青零迦児の胞絲・雄蕊と雌蕊の皇親神漏樹さま、動物の元親・赤零迦児の哺絲・雄と雌の皇親神漏身さま、人間の元親・赤零迦児の哺子・初代伊邪那岐尊・伊邪那身命さまが御降臨された以後は、全ての零迦児が脱皮を続け成長し生体と誕生し、伊勢で生成の神仕組みを以って、生勢繁茂発展育成され、生氣物として継承されて来ているのでございます。

三位一体の霊地・太陽の峯の山・創根ヶ峯の山頂

「初代」伊邪那岐尊は、童児のとき、「知瑠恵の霊魂」男の六魂「眼・耳・鼻・舌・身・意」の意志霊魂の清浄の為に一人旅をされ、緑豊かな山の尾根が何処までも続く、吉野の山を創造り出す創（青）根ヶ峯に立たれたとき、この素晴らしき大自然の有り様の中に、植物・動物・人間が三位一体で、不公平なく対等平等に生き続けることが出来る「生えて生やす生まれ産む、食べて食べられる。」輪廻転生「絶対に争い戦いを致さぬ」仕組みになっている事に感謝され、三つの岩石の霊石をお祀りされた霊地が創根ヶ峯の山頂で御座います。

熱田ノ生産の神

この太陽と日輪でお活動氣に成られている九霊神理氣のことを、九条「熱田の生産の神」とおよび申上げ、その熱田ノ神の祭りを生産祭りと定め置か

れ、この十三示元津「第一の神」と示し定め置かれていますので御座います。

丹生津ノ神

続いて、亢進状態になった丹が、太陽の真光と芒種のエネルギーが渾然一体の九霊神理氣になった親光に導かれ、示元津最果ての十三示元津の施津であります、宇宙産迂迦の障壁賀津の中に存在する天王平に到着します。そこには、太陽日輪界を中心とする宇宙産十一示元津にて発生させにられた「生」が集められていて、親光に導かれた「丹」が「生」と結合して、丹生丹生魂遺伝子が憑軀子されます。この丹生丹生魂遺伝子は植物・動物・人間の元姿となる遺伝子でございます。

そこで植物・動物・人間の元姿を顕現あそばされた丹生津ノ菊理の九霊神理氣を「第二の神」と定め置かれたので御座居ました。

伊勢ノ神

更にその丹生丹生魂遺伝子を、無色で透明なる真空光帯の施津であります
月津に導きになり、伊勢生成の九霊神理氣に依り、雄蕊と雌蕊、雄と雌、男
と女に区分けされ、生命と誕生させになり、この生命界である地球を正しく
生成発展させるため、丹・遺伝子に眼・耳・鼻・舌・身・意の魂を授けられ
て、生命継承権憲邪として、植物の元生産親・皇親神漏樹神、動物の元生産
親・皇親神漏身神、人間「初代」伊邪那岐尊・伊邪那身命が共に生命界
地球に天降しに降られた伊勢生成ノ神を「第三の神」と定め示し置かれたの
で御座居ました。

日出ずる丹ノ元「始めの国」なればこそ、第一の九霊神理氣を「熱田ノ神」
とお祀り申しあげ賜い、第二の九霊神理氣を「丹生津ノ菊理の神」とお祀り
申しあげ、第三の九霊神理氣を「伊勢ノ神」とお祀り申上げているのです。

三大蔵王権現

この人類の大祖人「初代」伊邪那岐尊が童児の時の事に、吉野山にお登り
に成り、創(青)根ヶ峯の山頂にて、宇宙産十三示元津の障壁賀津の中に御座
います「天王平」にある天の意和戸を出られるときの事を想い出され、その創
(青)根ヶ峯に三津の石を並べ置かれ、植物・動物・人間の丹生丹生魂「九霊
神理氣」を込め置かれたのでございしました。

その灵石の祭り場を天武天皇が破壊された時に、役の小角が三大蔵王権現
を現され、今も吉野山の蔵王堂にお祭りされています。

三所大権現

更に佛教で泰澄大師は、天武天皇が破壊された吉野山の三大蔵王権現を、
福井の上吉野山に三所大権現とお祀りされ給いたので御座います。

加えて生命の「生」を発生させられた十一示元津を、十一面観世音菩薩を
以って現され、その十一面観世音菩薩の胸に、人間として一番最初にこの

生命界地球に御降臨に成りました初代伊邪那岐尊の両手を合掌させになり、
初代伊邪那身命の両手を、お腹の上で指を組み合わせになり、九霊神理氣の
命により生産育てられた三十八名のお子の姿を、一本一本の手で以って現さ
れ、右側に十九本の手を以って男子十九名の御子を現し、左側に十九本の手
を以って女子十九名の御子を現し、十一面血種観世音菩薩像を以って人類の
大祖人・ご先祖の御姿を現されたので御座居ました。

三大太元帥明王

空海弘法大師は、丹生津界にて植物・動物・人間の丹生丹生魂遺伝子に憑軀
しされた遺伝子を、生命遺伝子にお換えになり、生命継承権憲邪として、こ
の生命界地球に御降臨された、植物・動物・人間の憲邪さまを三大太元帥明王
とお伝えに成られたので御座居ました。

さてこのお伝えは、丹波の国の真名井原の丹庭に御降臨になられた、人類

の大祖人「初代」伊邪那岐尊・伊邪那身命が伝え遺された秀真の神勅に依
るもので御座居ます。

神との約束「御難賛助の御誓約」

この始めの国・日本ノ国には、神佛の九霊神理氣に従い貫き通すと言う意
味を持つ、御難賛助の御誓約という詞があります「例えどんなに苦しく辛く
ても、互いに良く話し合い、共に賛助し合い争い戦いは絶対に致さぬ。」とい
う誓いであり、その御誓約を以って宇宙産九霊神理氣との約束として居るの
です。

したがってその御誓約に背き違えたときには、自らして腹を切り開く切腹
と言う厳しい仕来りのある国が、始めの国・日本国で御座います。

それ故に、神風に依って国が護られたときもありましたが、明治の権力者
は、御難賛助の御誓約に背き、意のままに成らぬ孝明天皇を暗殺して、意の
ままに成る天皇を勝手に擁立して、その天皇を神に祭り上げて、神の名の下

に国民を騙し、日本のため・国民の為でもなく、世界平和のためでもなく、自我の欲望権力の為に、次々と侵略戦争を繰り返した罪科に依って、本来は切腹をしなければならぬ身の上でありました。その精神を受け継いだその後の権力者たちはアメリカ・イギリスとも和睦できず、終には「神国である」と国民を騙し、神風特攻隊を飛ばしたり、人間魚雷を出撃させて多くの若者の命を犠牲にしたにもかかわらず、国民も目覚め立ち上がる事も無く、日本国全土を焼失させて、そのあげくに、広島長崎に世界で始めて原子爆弾が投下される憂き目に遭ったにもかかわらず、何んらの反省も無く、又しても日本国の権力者が権力欲しさに、再び日本国を戦争の出来る国にせんと、憲法第九条の改定せんと企み、特に「日本国憲法第九条は連合国が押し付けた憲法であるから変えなければならぬ」と言うのですが、決してそうではないのです。

昭和天皇の大御意思

終戦当時の権力者の中でこのような負け戦の責任を取る者はなく、昭和天皇は日本国と国民を救う為に、戦争責任を一身に担われて、昭和二十年八月十五日の神呪の日を期して、戦争終結の詔勅をお発しになり、連合国に無条件降伏をされたので御座居ました。

その昭和天皇の御意志の内は、権力に依って神に仕立てられて、口を諷じられた天皇の名の下に、戦争を進行して、何の責任も取るうともしない権力者達には、言いたき事は山ほどあれど、万難を廃止、二度と戦争をしない誓いを胸に、この先日本国民をいかにして救わんものかと、神佛「皇祖皇宗の御霊」におすがりに成られたので御座居ました。

すると神佛「皇祖皇宗の御霊」は二度と戦争を仕舞いことを条件に、日輪太陽界「九霊神理氣・熱田ノ生産の神」に産霊をされたので御座居ました。すると日本国民は、一人残らず昭和天皇の御意志に従い申上げて、神佛に

お誓いしたので御座居ました。

昭和天皇は国民の総意の元に、昭和二十一年三月五日に総理大臣を宮中にお招きになられ、次のように

日本国民が正義ノ自覚ニ依リテ、進ンテ戦争ヲ抛棄シテ、

国民ノ總意ヲ基調トシ、憲法ニ根本的ノ改正ヲ加ヘ、

政府当局其レ克ク朕ノ意ヲ體シ必ズ此ノ目的ヲ達成セシムコトヲ期セヨ

と勅語され、明治憲法の改定を下賜されたので御座居ます。

神佛「皇祖皇宗の御霊」を通し、九霊神理氣【九条】熱田ノ生産の神に

「御誓約」の約束を果たされたので御座居ました。

この神佛との御難贊助の御誓約を無視して、戦争を迫行して、戦争責任を負い切腹をしなければならぬ者が、責任逃れの口実に、「連合国が押し付けた憲法であるから改定しなければ成らぬ」と言い出した言葉を信じては成りません。

憲法第九条の改悪

憲法第九条の改定を唱え、美しい国造りを掲げる切腹者の安倍総理は、神呪の御意志により辞めさせられ、福田内閣でテロ特措法も期限切れとなったにもかかわらず、福田総理は一月の国会で強行採決を謀り、インド洋に自衛隊を派遣させたのでは、神佛の一番お嫌いである「恩を仇で返す」事になるのではないのでしょうか？・・・。

今、日本国政府がしている隣国を仮想敵国として、日米安全保障条約を強固にする事が「恩を仇で返す」と同じ事になり、始めの国の日本国は成り立たないのです。

先の大戦において、日本国が隣国・中国に掛けた迷惑を想うときに、連合国で日本列島の四分割占領をすると決めた事に、中国が反対し「天皇の事は日本人自身が決める事であり、他国が口出しする事すでに侵略である。」と



平成元年二月二十四日、昭和天皇の大喪の礼の時に、NHK 総合テレビを通して、初代・伊邪那身命がお観せくださった【神々との誓い】神聖画、十三示元津の三六の神々の御姿で御座います。

言い切り、連合国で取り決めた「日本国が中国への十九兆円の賠償金」を受け取らずに、放棄してくれた隣国を仮想敵国としての日米安全保障条約は、神呪の施津では許される物ではないのです。

しかも、日本列島を米国の核の傘の下に、核基地化すると同時に、日本国が憲法第九条を改定して、再び戦争の出来る国造りをするのでは、御難贖助の御誓約に背く事になります。それでは九条「熱田ノ生産の神」のお許しは戴けず、全日本人が神罰により総切腹しなければならぬ時と、隣国すべての国々が、日本列島を捨て置けぬと想う時とが一致する時が、第三次世界大戦であり、日本列島が核戦争の戦場と成る時である事を神様がお知らせくださったのは、平成元年二月二十四日の昭和天皇の大喪の礼の時の事で御座います。NHKのテレビ放送の中を通してお観せ下さった、神々との誓いの中で知らされた事を、改めて書かせていただき、その御姿を掲げさせていただきます。

世界平和神宮院・竝宮・昭和神宮建設を 以って世界恒久平和の道しるべ

二度と戦争をしない事を全世界に誓った憲法第九条を改定すると唱えたことは、じんしゅ神呪のせかい施津にそむ背くことであり、お詫びをしてあらわ真実を現すために、やまとたけるのみこと日本武尊がくさなぎ民草和氣のつるぎ剣を納め置かれた地、熱田神宮の元宮跡であり、尾張族が日の神「熱田ノ神生産なつひのの神」をお祀りされた、愛知県名古屋市緑区大高町日神山地内に、全世界の戦争殉難死された総ての御靈魂みたまをお祀りする、世界平和神宮院と、竝宮ならびのみやとして、日本国憲法の生産親うみおやであります昭和天皇をお祀りする昭和神宮を、今上陛下のお詞ことばを戴き天皇の名の下に建設為し、日本国憲法第九条を世界憲法と貢献するときに、真まことの世界平和が始まり、日本国の安泰となるのです。謹んで神佛の御啓示に従い申し上げました。

畏